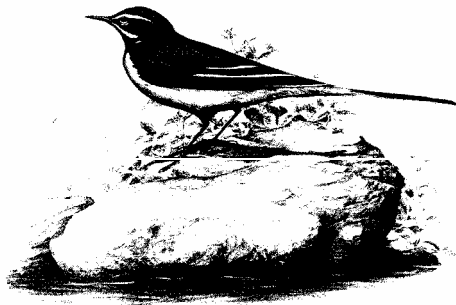


# いしたたき



— イシタタキ —

この鳥は主に河川周辺に棲んでいて、いつも尻尾を上下に振るので「イシタタキ」と呼ばれるのです。正確には、セキレイ科の鳥です。日田では普通、ハクセキレイ・セグロセキレイ・キセキレイの3種類が見られます。それぞれ、体の色で区別しています。このうち市内で周年見られるのはセグロセキレイとキセキレイですので、「イシタタキ」とは、この2種類をさすことばです。

## 「三隈川の水量増加」水量は決まったけれど その後は？

「三隈川の水量増加」推進実行委員会 諫本 憲司

新聞等で報じられた様に、今年3月に、柳又発電所の水利権更新に伴う、大山川ダム堰の河川維持流量（大山川本流に流す最低限の水量）が改められる事が決まりました。簡単に言うと、

現行 一年を通じて → 1.5 m<sup>3</sup>/秒、  
改正後

3/20 ~ 9/30 → 4.5 m<sup>3</sup>/秒、

10/1 ~ 3/20 → 1.8 m<sup>3</sup>/秒

といった内容で、普段の水量が増えることとなります。住民や釣り人たちからは、河川環境の回復、特に、鮎の生育や水質改善に大きな期待をもたれているようです。

さて、今どうなっているのかと申しますと、実際はまだ増量していません。

その理由は、

- ① 水利権更新の際の内容は決まったけれど、事務的な許可の手続中で、まだ正式に許可が下りていない。
- ② 大山川ダム堰からの放流を恒常的に増やすには、大がかりな改修工事が必要で、水量の少ない時期の工事となる。

- ③ その工事には、数億円の費用が必要で、その費用を、九州電力が負担するか、建設省の工事として国が負担するか、未だ検討中である。

- ④ 今年度中に決めようと結論を見送った松原ダムからの放流量が、まだ決定されておらず、③を建設省が行うとすれば、松原が決まらなければ、工事計画・予算が決まらない。

といったもので、簡単に言えば、大山川ダム堰の放流量は決まったけれど、その工事計画・予算の準備がまだ整っていないという状況です。

私たちは、とりあえず、大山川ダム堰の可動堰を利用して増やすとか、何らかの仮の措置でもして一刻も早く水量を増やしてほしいと思っておりますが、まだ正式な会議が行われておりません。建設省・九電は、工事实施へ向けての調整・検討は行っているようですが、難しいことはともかく、早く増やしてほしいものです。



## 球磨川に遊ぶ

三隈川清流をもどす会 安元源之介



いよいよ秋に突入し朝晩が肌寒くなり、三隈川の鮎釣りも終わりに近づいた。

先日九月の中旬、一泊二日の予定で、「日田鮎美会」のメンバー6名にて、球磨川に鮎釣り遠征に行ってきた。シーズン中は、三隈川に誰か毎日のように入川している仲間、筑後川は上流より下流迄知り尽くし、鮎と毎日格闘している連中の集まりではあるが、九州の名川球磨川となると遠足を待ちこがれる心境の、子供の頃に還った様子みたいだった。

当方に朝七時に集合し、荷物を積み込み出発。上津江村兵戸峠を越え、熊本ICから高速道に乗り人吉IC料金所まで約二時間半の行程、人吉IC出口より約10分程度で、目的地人吉市温泉街に到着する。

対岸の中ノ島公園に着き一同車から降りて、目の前の川を眺めると、球磨川の青々と澄み切って、涛々と流れる雄大さに一同唖然とし、異口同音「こげな川で何時も釣りにえネー！」「日田ん川は負けちよるツマランばいハガイイねー！」と、出ることしきり。誠に残念ではあるが本音である。三隈川は上流のダムや堰の建設のせいであろう。

球磨川も今上流に、川辺川ダム建設問題で大揺れに揺れている。どうもおかしい、決して建設させてはならない、絶対に阻止だ！！。絶対阻止せねば！！。もうコリゴリだ。三隈川の二の舞を球磨川にはさせたくないものだ。せめてここだけは清流を残したいとの願いが我々の思いだ。人吉市民もそう思っているに違いない。この事を考えると背中がムズ痒くてなりません。

温泉街裏には赤や青の鮮やかな釣り姿の太公望達が15～6人はいるだろうか、いまにも竿が折れんばかり、円月に曲がり野鮎をたも網に掬っている姿が、実にユーモラスでもあり、又周りの風景にマッチした情緒さにも憶えた。

まずは腹ごしらえと、公園のベンチでお弁当を

開き身支度を整え、各自思い思いのポイントへ、激流、急流、チャラ瀬、トロ場などいろいろ有り。何処を見ても釣れそうな場所ばかり。さすがは球磨川だと連中も思ったに違いない。

その後私も釣りに興じ三隈川では味わえない、天然遡上の野鮎の豪快な引きの強さを、十分に堪能し、筑後川も昔の様にダムや堰が無ければ、このような川の状態でいられるのにと、悔しい思いをしながら午後の半日釣りに没頭し楽しみました。

約束の集合時間になると、上下流から皆得意満面な笑顔を浮かべ、鮎活かし缶を掲げ戻って来た。釣果を確認すると24～28cmの野鮎を一人平均15匹は釣っているみたいだった。

しかし数はともあれ、三隈川では見られない青味を帯びた魚体の美しさと、天然鮎独特の、黄色のシンボルマークが燦然と輝き、香魚と呼ばれる特有の果物の香りが漂い、「サスガ球磨川ん鮎バイ」と、皆絶賛。一同チョー良質の鮎と、恵まれた水と風景に満喫し、初日を終えた。

その晩は宿に泊まり、釣りたての鮎の塩焼きと、名産球磨焼酎で釣り談義、その美味しい事。酔いが廻ると太公望が釣り天狗と化し夜遅くまで話しが弾み球磨川を褒めることしきり。

翌日は下流へ場所を移し、前日同様一日納得いく釣果と大自然が釣れ、同行者一同大満足し、無事帰路に着きました。

日田に帰着後来年も又絶対に行こうネェーと！！誓い合い別れたところです。

追伸

球磨川に行くチャンスのある方は一度このような目で旅行を楽しまれては如何でしょうか？

それともう一言、地元の方の大変親切丁寧で理解の深い事、々!!やはり名のごとく「お人好し市」ですよ。





## えっ、夜明ダム（発電所）の水利権更新？？

ひた水環境ネットワークセンター 座長 諫本憲司

今年3月まで、柳又発電所の水利権について協議が行われ、松原ダム（発電所）については、現在も継続中ですが、なんと、夜明ダムの水利権について、平成4年に更新の申請がなされたまま、まだ許可手続きが完了していませんでした。（九電から建設省へ）現在、更新の途中でありますが、その経過の中で、今年3月に建設省から大分県に意見聴取がなされ、7月になって、大分県から日田市にも意見を求めてきたため明らかになったものです。

夜明ダムは、昭和28年に発電用水利権の許可を受け、昭和29年に完成し、九州電力が管理者となっています。

30年後の昭和58年に水利権が更新されましたが、その時は、浮羽郡の農業用水の計画がある為、特別に10年の期間で許可されています。そして、平成4年3月に更新期を迎え、更新の申請がなされているのですが、河川維持流量（夜明ダムからの通常の最低放水量）などを検討しているうちに、本年まで申請がなされなかったものと聞いております。

夜明ダムは、その上流で、ボート競技などの会場として活用されていますが、三隈川を自然の川から遠ざけている大きな原因にもなっています。それは、歴史的に川を利用してきた舟運や（木流しなど）自然の川の条件でもある鮎や鰻、かに等の遡上を完全になくしているからです。

さきの三隈川の水量増加運動の際に、日田市民からの要望は、水量増加とともに、あらゆる角度からできるだけ自然の川に近づける様、求めてきました。

最終的に、建設省や、九州電力・大分県・

地元などで構成される河川環境協議会が発足され、水量の検討もされましたが、その時にも、河川環境の改善（河道整備）の中で、具体的に、夜明ダムにせめて魚道を設置してほしいとの要望もなされております。その時は、時間がない事と、また別の話になるとのことで、別の機会に検討しようと言うことになっていました。それがほぼ同じ時期に、夜明発電所にも更新の必要があったことは、私たちが勉強不足でしたが、関係者から一言もそのような事について聞かせてもらえなかった事は大変残念なことです。

今回は、大山川や三隈川の水量が増えるというようなことではありませんが、自然体系から河川環境を考えた場合、水量増加と同じく重要な意味をもっていると思われます。

日田市は、一応「魚道設置の要望」を附した意見を大分県に提出した様です。

この件に関して、皆様のご意見をお聞きしたいと思っておりますので、FAXでも葉書でもかまいませんので、「ひた水環境ネットワークセンター」までお寄せ下さい。







# 第5回 リバーフェスタ in みくま川 開催 2000.8.20日

## 「お礼とお願い」

ストリームひた代表 近藤 賢司

「ストリームひた」は日田を基盤に活動している色々な青年グループの集合体の略称です。正式名称は日田青年団体協議会。去る8月20日に三隈川にて実施されました「リバーフェスタ」の主催者の一員として携わることができました。今回は「川がゆうえんちになる」をメインテーマとして加盟青年団体による11のアトラクションが繰り広げられました。川を知るには川に触れるのが一番。色々な視点から川を見て、各々が川への思いをはせたことと思います。又、当日はサッポロビール株の御協力を得て三隈川クリーン作戦と題して清掃活動を行いました。

これからの私たちは、加盟各団体の英知と行動力を結集して様々な街づくり、町おこしを企画実行していきたいと考えております。今後の活動に皆様方の御理解と御協力をお願い致します。最後にこの「リバーフェスタ」を催すにあたり、ご尽力頂きましたサッポロビール株並びに関係者各位に深く感謝致します。ありがとうございました。



## 「リバーフェスタ in みくま川」

リバーフェスタ実行委員長 石井 真一

第5回リバーフェスタが事故もなく無事終了しホットとしています。各青年の団体に声をかけ、5月中旬より実行委員会を立ち上げました。最初は事業内容がまとまらず、どうなるかと心配していましたが、回を重ねるごとに内容も充実し、形がみえてきました。ストリーム日田に加え、新しくベンチャークラブの女性メンバーが花を添えてくれました。それぞれの役割を各団体のメンバーの方々が担当し、一生懸命にがんばってもらったことが、事業の成功につながったと思います。

人材は、勉強や研修だけで育成されるものでなくて、実践を通して教育されると思います。実際のまちづくりの中でリーダーシップが磨かれていきます。まちづくりをプロデュースするアイデアをたくさん提案し、共に行動する青年が、リーダーであることを自覚し、自分自身を高め、地域の自立につなげていく中から、まちづくりのリーダーは輩出されます。わたしたちは、そういう地域を作っていく仕組み作りに取り組む必要があると思います。今回の事業を通して、各青年団体との横のつながりが一段と確かなものになったと思います。「まちづくり」という目的のもと21世紀に向けて新たな布石が打たれたことでしょう。最後にご協力いただいた、関係者の方々に御礼を申し上げます。ありがとうございます。



## 「ご協力ありがとうございました」

まちづくり委員会委員長 梶原 義一

この度の第5回リバーフェスタ！Nみくま川での交流ポート大会の開催にあたりまして、皆様方の多大なご協力を頂きましてまことにありがとうございました。まちづくり委員会のメンバー一同から、心より感謝申し上げます。

私たちまちづくり委員会では、今年度当初より 親水事業 であるリバーフェスタにしまして継続性を考え、実行委員会の中心的役割をひた水環境ネットワークセンターに所属するJCOBの方々に運営して頂くをお願いいたしました。そして、OBの方々は、この大役を快く受けてくださり、その実行力と人脈により今回の大規模なリバーフェスタの企画運営を行いました。

今回のリバーフェスタの重要な点は、その大規模な企画と共に多くの団体に参加を促し、この事業をきっかけとしたまちづくり仲間の拡大を図ったことにあると思います。

私たち青年会議所は、今まで単年度単独事業を基本とした事業展開を行って来ました。しかし、今の時代の流れについていけない部分が生じていたのではないのでしょうか。各団体が、個々に活動する事より一緒に活動していくことで、その力を3倍にも4倍にも拡大し、行政や市民を動かしていく、明るい豊かな地域づくりを考えて行く時代ではないでしょうか。

私たち、まちづくり委員会では、他団体の協力のもと第5回リバーフェスタが盛大に開催できたことを、委員会事業の成功と考えております。今後、青年会議所の多くの事業がこのような形で拡がることを期待いたしまして、今回の報告とさせていただきます。

## みんなが楽校 ~自然は友達~

8月20日、市内各小学校より集まっていた子供達約130名と亀山公園周辺において自然体験学習を行いました。まず子供達と三隈川クリーン作戦(Love The Riverキャンペーン)で周辺のゴミ拾いをして、環境問題への関心を高めてもらいました。その後本題の自然体験ですが、今の子供達は自然と遊ぶ機会が少なく、みんな最初は薪割りや川にいる生き物採集に訳がわからないといった様子でした。しかしその割った薪から火をおこし、そうめんをゆで、流しそうめんをすれば子供達は自分たちでそうめんを食べられる事に感動していたようです。子供達は私たちと一緒に遊んでいるうちに自然の大切さ、生き物の尊さが分かってきたように感じました。また違う学校の生徒とも仲良くなれ、「外で遊ぶ」ということがどれだけ楽しいことが体験できたのではないのでしょうか。いまの学校生活では外で遊ぶことはどうしても「キケン」が伴ってしまいます。また自然の中で遊べる環境も少なくなっています。私たち大人が子供に自然とのつきあい方や自然を大切にすることの大事さ、創意工夫や豊かな感性を教えることで、子供達にとって少しでも感じてもらえるものがあれば良かったと思います。

